

「移住リエゾン」って?!

皆様はじめまして。今年6月からにかほ市地域おこし協力隊の「移住リエゾン」として活動している宇都宮律子と申します。

私は千葉県出身で、昔から山歩きや美味しいものを食べ、のんびり過ごす旅が好きでしたが、最近はい然豊かな所で暮らしたいという気持ちが大きくなりました。そんな中、昨年8月に東京で開催された移住イベントに足を運んだところ、にかほ市の職員の方の声をかけてもらったのがきっかけで移住しました。

私にとってにかほ市は、2年前の夏に鳥海山を訪れた時、鉾立登山口から見た日本海に沈む夕日、数々の高山植物、行く先々で出会った地域の方々の優しさが印象深く、何度も訪れてみたい場所の一つでした。実際ににかほ市に暮らす決

め手となったのは、「人」です。知り合いがまったくいない場所です。暮らしに多少の不安はありましたが、職員の方や移住リエゾン、そして移住体験で出会った地域の方々があたたく見守ってくださるので大変心強いです。

現在、象潟庁舎の連携推進課を拠点とし、「移住リエゾン」として活動しています。「移住リエゾン」と聞いて「？」と思った方がたくさんいらっしゃると思いますが、「リエゾン」とはフランス語で「つなぐ、



移住相談は私たちに任せください。

連携、橋渡し」といった意味で、移住希望者さんとかほ市をつなぐ橋渡しの役割を担っています。具体的には、全国の方々へにかほ市の魅力を発信したり、移住希望者さんからの相談対応、移住体験ツアーの企画やご案内、市内の空き家を移住希望者さんへつなぐといった仕事です。



宇都宮 律子
Ritsuko Utsunomiya

勤務先：連携推進課
出身地：千葉県

今後、地域のイベントや行事など積極的に参加させていただき、多くの方々の架け橋となる

ことが出来るよう日々取り組んでいきます。もし地域で見かけた際は、お気軽にお声がけください。どうぞよろしくお願ひします。

生活クラブ×風車×にかほ市

■院内風車「千颯（ちはや）」竣工
5月24日、院内地区に建設していた大型の風力発電「千颯」の竣工式が開かれました。この風力発電事業は、13年前に芹田に建てられた風力発電「夢風」と同じ首都圏の生活クラブグループが設立した一般社団法人グリーンファンド秋田によって運営されます。あわせて、今回の竣工式ではコロナ禍で開催できないでいた「夢風」10周年記念も同時にお祝いしました。

■「地に足をつけた地域間連携」
今回の夢風10周年を記念して同社が発行した記念誌『にかほの風でつながる。希望の未来をつくる。』から、風車の建設から現在に至るまでの生活クラブ組合員の方々の葛藤や想いの変遷を知ることができます。

当初、組合員の中には風車による発電事業の取組みに対する懐疑的な声が相当数ありました。「生活クラブの活動は食に対して作ること・消費することをメインに活動してきたのに、なぜエネルギーなのか。しかもなぜ風車なのか」といった声です。

そんな空気を変えたのは福島原発事故でした。組合員の間に「エネルギーのことについて自分たちで考えなければならぬ」といった意識が広がり始め、頻繁に学習会が行われるようになっていきました。そして、その学習会において原発や自然エネルギーについて議論が交わされる中で、主要テーマとなる「生産され

たエネルギーを首都圏で暮らす人々が使用し、地元へ負荷をかけるだけであってほならない」、「電力を供給する地元の人たちと、電力を使用する首都圏の消費者の人たちとの関係性こそが大事」という基軸が確立されていきました。いわゆる「対等互恵」の考え方です。

そして今、この「対等互恵」の考え方は、平成25年に生活クラブとにかほ市が発表した「持続可能な自然エネルギー社会に向けた共同宣言」内に、「地に足をつけた地域間連携の仕組みこそが、現代社会を持続可能なものにする」という文言でしっかりと表現されています。

■地域間連携の具体的な取組み

夢風を軸にしながら進められてきた生活クラブとにかほ市との地域間連携では、①交流事業、②夢風ブランド開発活動、③夢風ブランド共同購入、④にかほの物産の共同購入、⑤農産物取組み、⑥市エネルギー基金協力金、⑦固定資産税、⑧土地貸付金など、さまざまな取組みが行われています。そして、年間約3千5百万円前後、令和5年までの11年間では総計で3億円を超える直接的もしくは間接的なお金をいただいております。市はこのお金を使って学校のイス・机・電子黒板を購入したり、子どもたちの食育にかける事業を実施したりしています。

また、②から⑤にあるように、市内の農産物や商品を首都圏の生活クラブの店舗で販売するだけでなく、市内事業者と生活クラブとで夢風ブランドを立ち上げ、

空き家の利活用についてご相談ください

1つでもあてはまるようでしたら、一人で悩まずにまずは気軽にご相談ください

- ◎仏壇や家財道具があるし…倉庫として使っているが…片付けられない…
- ◎築年数もだいぶ経ってるし、手放すにしても売れないと思う…
- ◎草刈りや屋根の修繕、県外に暮らしてるからどうなっているのか不安…

相談はコチラから

例えば、こんな制度の利用方法もあります

空き家情報バンク(売却・賃貸)	にかほ市内のお家を探している方に情報提供する制度です
空き家家財道具等処分費補助金	空き家情報バンク登録者に対して家財道具等の処分に要する費用の2分の1を補助します(上限10万円)

お家・空き家の相談について

お電話や直接、窓口にお越しいただくでも大丈夫ですし、定期的に相談会やセミナーを開催しています。市の広報などでお知らせしています。いつでもお気軽にご利用ください。

お問い合わせ先 にかほ市 連携推進課・移住リエゾン
TEL: 0184-43-7510 MAIL: renkei@city.nikaho.lg.jp



にかほ市長
市川雄次

■親戚みないな関係
生活クラブとにかほ市との地域間連携の中でもっとも特徴的なのは、夢風が立地する芹田自治会と生活クラブとの緊密な交流です。

なぜ生活クラブは初めての風車をにかほ市芹田に設置したのか。県内外にいくつかの候補地があった中で、芹田地区が選ばれた決定的理由は、にかほ市の地域柄、特に芹田の皆さんの親しみやすさが、生活クラブの皆さんに「共に歩いていく」と感じさせてくれたからです。地元の人たちが「親戚みないな関係」と表現するこの親しみやすさは、生活クラブが目標とする「電気と消費財を地域と連携しながら生み出し続ける」を実践するのうってつけだったのだと思います。

この芹田地区を起点にした生活クラブの取組みは先進的事例として新聞などで県内外に紹介されています。この関係が新たに風車が建設された院内地区だけでなく、教育現場を含めた市内全体にさらに広がっていくことに期待をしております。

